

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 読売自動車大学校	昭和57年3月30日	渡辺 宜男	〒136-0071 東京都江東区亀戸2-28-5 (電話) 03-3685-6761																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 読売理工学院	昭和45年1月31日	理事長 松井 敏宏	〒112-0002 東京都文京区小石川1-1-1 (電話) 03-3868-0411																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	1級整備学科			文部科学大臣告示第7号																						
学科の目的	自動車社会の環境と安全を維持する優秀な自動車整備技術者を養成するため、現在並びに将来の自動車業界で活躍できるよう、基本から最新技術までの教育を行い、リーダーとなる人材を育成する。																										
認定年月日	平成25年1月29日																										
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																				
	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	3600時間		926.8時間	375.2時間	3072.8時間	0時間	0時間																			
4年	昼間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
140人	67人	11人	14人	9人	23人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀、優、良、可、不可の五種で表し、 秀、優、良、及び可を合格とする。																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	必修科目をすべて修得。2年修了時に学科600h以上、実習1200h以上を修得。3年進級時に二級ガリン・二級ジーゼル自動車整備士資格を取得すること。卒業時に3600h以上かつ学科880h以上、実習1665h、実務実習750h以上修得のこと																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任が個別面談を行い、生活・就職等の指導をきめ細かく実施。更に臨床心理士のカウンセラーも置き、教員とも連携した支援体制を取っている。			課外活動	■課外活動の種類 オリエンテーション、スポーツ大会学生実行委員会、24時間TV学生ボランティア活動、文化祭実行委員会、 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 自動車ディーラー、自動車メーカー、専業工場など			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>23人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>職業訓練指導員</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	23人	17人	職業訓練指導員	③	18人	3人								
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																						
	一級小型自動車整備士	②	23人		17人																						
	職業訓練指導員	③	18人		3人																						
■就職指導内容 教員2名、職員1名の就職担当者が中心で就職指導を行うが、就職相談や面接練習などをクラス担任も随時行っている。就職関連の授業では企業の人事担当者による講演も実施している。																											
■卒業生数: 23人 ■就職希望者数: 20人 ■就職者数: 20人 ■就職率: 100%																											
■卒業者に占める就職者の割合: 87.0%																											
■その他 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)																											
中途退学の現状	■中途退学者: 2名 令和3年4月1日時点において、在学者70名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者68名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・学校生活への不適合・経済的問題等			■中退率	2.9%																						
経済的支援制度	■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による個人面談や三者面談を通し、きめ細かく指導している。臨床心理士のカウンセラーによるカウンセリングを実施すると共に、教員に対するカウンセリング技術に関する研修も行っている。シミュレータを利用するなど、理解しやすい授業内容を工夫している。																										
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 読売英奨学制度、小林與三次記念奨学金、1級整備学科特待生制度、留学生特別奨学金制度、校友会特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	https://vccm.ac.jp/dept_1st_mechanics/																										

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)

■自由記述欄

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年、自動車に搭載される技術の高度化が速くなっているため、最新の教材を毎年導入し実習内容の見直しを実施するとともに、自動車関連企業の技術者を兼任教員として招聘し実践的な教育を実施している。また、本校卒業生の就職先である自動車整備業界が必要とする人材を育成するために、学科授業において企業の職員に講師を依頼して授業を実施している。企業等と学校間の意見交換の場を定期的に設けることにより、企業との連携を強化することで教育課程改善のPDCAサイクルをより充実させる。(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教務委員会において、カリキュラムを検討する上で、教育課程編成委員会の議事録を参考として教育内容の検討を行っており、企業での整備内容を把握することで実践的な教育内容の向上を図っている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
大森 淳	一般社団法人 東京都自動車整備振興会 教育部 部長代理	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	①
今井 一之	株式会社関東マツダ	同上	③
渡辺 宜男	専門学校読売自動車大学校 校長	同上	
北村 眞一	専門学校読売自動車大学校 校長補佐兼1級整備学科 学科長	同上	
北島 鎮夫	専門学校読売自動車大学校 自動車整備学科 学科長	同上	
鈴木 雄一郎	専門学校読売自動車大学校 教務委員長	同上	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、7月と11月に開催する。

(開催日時)

第1回 令和4年7月14日 15:30～16:30

第2回 令和4年11月18日 15:30～16:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教材の更新については、実習関連のフロア・ジャッキ、バイク用スタンド、エア・ツール、高輝度プロジェクタの更新を行った。エアコンの更新や修理も実施した。実習教材について、HV教材としてプリウス50を4台の購入を行った。次年度予算では、学科教室のプロジェクタを高輝度の見やすいものに交換したいと考えている。教材車については樹スバルよりフォレスト4台が寄贈され、1年生実習で使用した。教育内容の改善について、各企業の協力により新技術研修等を実施いただいている。3年生の実習授業の中で各社の新技術を紹介いただくことを検討している。

◇資格講習については、従来各資格講習を実施しているが、新たに、タイヤ空気充てん安全講習を教員が受講し、昨年度から実習内で授業として実施するための準備に入っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の人材ニーズを活かし、自動車整備関連企業で必要となる実践的で専門的な能力を育成するために、実習・演習等の授業において組織的な企業等との連携により、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1・2年次の実習において、企業現場での実践的な整備作業の基本を教育することを目的とし、(3)に示すように、企業連携による実習を実施している。また、4年次には企業において自動車整備士としての230時間以上のインターンシップを全員が実施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
電気装置1	バッテリー、単体車体電装品	有限会社ウタシロ
E総合実習	トラブルシューティング	有限会社ウタシロ
シャシ1	基礎作業、日常点検、動力伝達装置(T/M、クラッチ)	株式会社トライボジャパン
定期点検整備	法定点検、車検・定期点検整備の実務、記録簿等	京葉電子工業株式会社
体験実習(インターンシップ)	認証・指定整備工場でのインターンシップ	日産プリンス東京販売(株)、東京トヨタ自動車(株)、協和自動車(株)、ネットトヨタ東京(株)、(株)ダイハツ千葉販売(株)、(株)スズキ自販東京、東京日野自動車(株)、(株)ホンダカーズ東京中央、(株)関東マツダ、栄自動車(株)他
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
自動車整備分野の実務に関する研修として、東京都自動車整備振興会や全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA)並びに自動車メーカー等が開催する技術研修会に参加する。学生指導に関する研修として、東京都専修学校各種学校協会、東京都私学財団等の開催する研修会に参加する。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
<ul style="list-style-type: none"> ・スズキ 新技術講習(教員対象 先進安全技術の確認、点検、調整) ・マツダ (教員対象 ライトエーミング調整) ・BMW BMW特有の新技術について(教員対象 技術情報のセキュリティ管理について) ・整備主任者技術研修・スズキ 新技術講習 		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
本学院カウンセラーによる「困った人(クレマー、モンスターペアレンツへの対応)研修		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
国土交通省が行う整備主任者講習や振興会各メーカー主催の新技術研修会、JAMCA主催の技術研修会等に積極的に参加する。		
<ul style="list-style-type: none"> ・整備主任者技術研修(教員対象の技術研修1日間。国土交通省主催の新技術研修) ・教員対象: マツダ主催の新技術研修)、鈴木自動車技術研修会他 		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
官公庁や東京都専修学校各種学校協会、JAMCAなどが主催する教育指導に関する研修会等に積極的に参加する。		
<ul style="list-style-type: none"> ・整備主任者法令研修(教員対象の法令研修1日間。国土交通省主催の法令改正に関する研修) ・整備学校協会主催の国家試験対策授業を向上させるための研修) ・本学院カウンセラーによる学生対応に関する研修 		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1) 学校関係者評価の基本方針		
学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役員等々の学校関係者を選任し、学校が実施した自己評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。なお、評価の観点は次の項目による。		
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容が適切かどうか ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切かどうか ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか 		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目		
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。学校における職業教育の特色はなにか。社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか。		
(2)学校運営	目標等に沿った運営方針が策定されているか。運営方針に沿った事業計画が策定されているか。運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。		
(3)教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。		
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか。資格取得率の向上が図られているか。退学率の低減が図られているか。		
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。学生相談に関する体制は整備されているか。学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。		
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。		
(7)学生の受入れ募集	学生募集は、適性に行われているか。学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。学納金は妥当なものとなっているか。		
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。財務について会計監査が適性に行われているか。		
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。		
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。		
(11)国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか。留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
基準項目毎に4段階で評価を報告書としてまとめ、評価内容や提起いただいた課題をもとに改善を行っている。学生への緊急連絡法の見直しや地域に対するボランティア活動を実施するなどの実績がある。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
令和4年6月1日現在			
名前	所属	任期	種別
今井 一之	株式会社関東マツダ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	企業
齋藤 義明	亀戸二丁目町会 会長	同上	地域
矢田 泰久	読売自動車大学校同窓会 会長	同上	卒業生
蛭田 浩由	1級整備学科2年 保護者	同上	保護者
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期			
ホームページにて例年9月に「学校関係者評価報告」として公表している。 https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html			
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針			
学生便覧やカリキュラム、年間予定を配布すると共に、学科の教育・就職活動の現状を報告することで把握いただいている。			

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	同左
(2)各学科等の教育	同左
(3)教職員	同左
(4)キャリア教育・実践的職業教育	同左
(5)様々な教育活動・教育環境	同左
(6)学生の生活支援	同左
(7)学生納付金・修学支援	同左
(8)学校の財務	同左
(9)学校評価	同左
(10)国際連携の状況	同左
(11)その他	同左

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	限定	選択 限定						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		PCプラクティス	顧客データの管理、伝票の作成など、多くの仕事にパソコンを利用しており、整備士もパソコンを使いこなす必要がある。表計算ソフト(エクセル)の使用法を中心に講義する。	1前	16.8		○			○				
2	○		ビジネスマナー1	就職活動を行うために必要な一般的常識、マナーについて講義する。また、ソーシャル検定の取得を目標とした講義も行う。	1前	19.6		○			○		○		
3	○		ビジネスマナー2	社会人として必要な一般的常識、マナーについて講義する。また、自動車販売会社の人事担当者による講義を実施し、企業が求める人材を把握する。	1後	19.6		○			○		○		
4		○	日本語1	留学生を対象とし、聴解・読解・会話について、総合的な日本語能力の向上を目的に授業を実施する。	1前	36.4		○			○			○	
5		○	日本語2	継続して日本語教育の必要である留学生を対象とし、日本語能力の向上を目的に授業を行う。	1後	39.2		○			○			○	
6		○	日本語3	継続して日本語教育の必要である留学生を対象とし、日本語能力の向上を目的に授業を行う。	2前	39.2		○			○			○	
7		○	日本語4	継続して日本語教育の必要である留学生を対象とし、日本語能力の向上を目的に授業を行う。	2後	8.4		○			○			○	
8	○		危険物取り扱い法	乙種4類危険物取扱者試験に合格するための知識を身につけるための講義を行う。	1前	25.2		○			○			○	
9	○		安全科学	自動車整備士が知っておくべき安全の知識を修得する。作業中の安全、災害時の対応、損害を受けた場合の保証の問題等について講義する。	1前	19.6		○			○			○	
10	○		図学基礎	自動車の構造、機能等を理解するためには図面を読みとる能力が必要となる。図面に対する約束ごとを講義し、プリントに従って演習を行う。	1前	16.8		○			○			○	
11	○		自動車概論	将来自動車関連産業にかかわる者にとって必要な自動車の教養科目であり、自動車産業の成り立ちから、車社会の問題、自動車に係わる環境問題について講義する。	1前	19.6		○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	限 定	選 択 限 定						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
12	○		燃料と油脂	原油から精製されるガソリンや軽油、LPG等の燃料や、部品の潤滑に使用される潤滑油等、自動車の走行に重要な働きをする燃料・油脂の精製法や特性等を理解する。	1 前	19.6		○			○		○		
13	○		自動車材料	自動車部品は、要求される性質で、金属、非金属、ゴム、ガラス、プラスチックなどを使い分けている。要求される性質とそれに適合した材料及びその性質について講義する。	2 前	21.0		○			○		○		
14	○		電気工学	自動車の中で、重要な役目を担う電気装置を理解するために、電気磁気的基础、直流、交流回路の基本的な理論を講義する。	1 前	19.6		○			○		○		
15	○		自動車工学1	自動車に関する基本的な構造や走行・停止の原理などを理解し、機械工学の基礎的な知識を学ぶ。	1 前	19.6		○			○		○		
16	○		自動車工学2	計算の基本や単位の換算について、解説と演習による復習を行った後、自動車に関する基本的な機械工学計算について理解する。	1 後	19.6		○			○		○		
17	○		自動車工学3	二級国家試験を年頭に置き、機械工学の基本を復習し、応用計算の講義と演習を行う。	2 前	21.0		○			○		○		
18	○		自動車工学4	二級国家試験の工学問題について演習と解説を行い、機械工学の知識と応用計算力の向上を目指す。	2 後	36.4		○			○		○		
19	○		エンジン・1	ガソリン・エンジン、ディーゼル・エンジンの基本的な構造・作動について講義する。	1 前	19.6		○			○		○		
20	○		シャシ・ボディ1	自動車の基本運動性能である「走る、曲がる、止まる」の概要について、その機構の基本的な構造作動を講義する。	1 前	19.6		○			○		○		
21	○		カー・エレクトロニクス1	自動車の電気装置のうち、エンジン電装品である、バッテリー、スタータ、オルタネータ等の基本を講義する。	1 前	19.6		○			○		○		
22	○		ガソリン・エンジン2	ガソリン・エンジン内部の各構成部品の構造・役割を理解し、電子制御式燃料噴射装置やキャブレターなどの燃料装置の構造・機能について学ぶ。	1 後	18.2		○			○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	限 定	選 択 限 定						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
23	○		ジーゼル・エンジン2	自動車用ジーゼルエンジンの燃料装置を中心に、ガソリン・エンジンと比較しながら、その構造と作動を理解する。	1後	18.2		○			○	○			
24	○		シャシ・ボディ2	動力伝達装置のマニュアル・トランスミッション、デファレンシャル、また、制動装置のドラム・ブレーキ、ディスク・ブレーキなどの構造と作動を理解する。	1後	18.2		○			○	○			
25	○		カー・エレクトロニクス2	始動装置・充電装置・点火装置の基本回路について解説する。また、ライトなどの車体電気装置にも触れ、電気装置に関するトラブル・シューティングの知識についても学ぶ。	1後	18.2		○			○	○			
26	○		二輪基礎	燃料装置やサスペンション等について、二輪車に特有な装置の構造作動を解説する。	1後	19.6		○			○	○			
27	○		ガソリン・エンジン3	二級自動車整備士にとって必要となる、最新型エンジンの技術について、その目的や必要性を含めて講義する。	2前	21.0		○			○	○			
28	○		ジーゼル・エンジン3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年問題視されているジーゼル・エンジン排気ガス(PM、黒煙等)や新技術(コモンレールエンジン)について講義する。	2前	21.0		○			○	○			
29	○		シャシ・ボディ3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年進歩がめざましい電子制御を応用した走行装置について講義する。	2前	21.0		○			○	○			
30	○		カー・エレクトロニクス3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、各電気装置の特性やトラブル・シューティングについて講義する。	2前	21.0		○			○	○			
31		○	ハイブリッド・EV	ハイブリッド車の構造(駆動用バッテリー、インバータ、コンバータ、トランスアクスル)と作動、EVの構造作動	2後	9.8		○			○	○			
32	○		ガソリン・エンジン4	ガソリン・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2後	36.4		○			○	○			
33	○		ジーゼル・エンジン4	ジーゼル・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2後	36.4		○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	限 定	選 択 限 定						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
34	○		シャシ・ボディ4	シャシ・ボディに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、シャシに関する装置の構造作動に関する理解を深める。	2 後	36.4		○			○		○		
35	○		カー・エレクトロニクス4	電気装置に関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、電気装置の回路・作動に関する理解を深める。	2 後	36.4		○			○		○		
36	○		総合整備法	今まで学だ専門科目の総仕上げとして、二級自動車整備士国家試験に100%合格できる実力を身につけることを目的とし、二級問題を中心に講義と演習を行う。	2 後 半	95.2			○		○		○		
37	○		車検・法規1	自動車に関係する法律の解説で、道路運送車両法、道路運送車両施行規則、自動車点検基準などを理解する。	2 前	21.0		○			○		○		
38	○		車検・法規2	新規・継続検査の法令、道路運送車両法の保安基準、通達等を理解する。又、検査の実施方法、検査機器の構造、作動及び測定要領、検査実施上の注意事項を理解する。	2 後	28.0		○			○		○		
39	○		エンジン1	小型ガソリン・エンジンのオーバー・ホール	1 前	53.2				○	○		○		
40	○		シャシ1	基礎作業、日常点検、動力伝達装置(T/M、クラッチ)	1 前	53.2				○	○		○		○
41	○		電気装置1	バッテリー、単体車体電装品	1 前	53.2				○	○		○		○
42	○		工作・測定作業	ガスマイクロメータ測定法、車両日常点検、基礎工作作業	1 前	53.2				○	○		○		
43	○		二輪1	4サイクルエンジンのオーバー・ホール、動力伝達装置	1 後 上	68.4				○	○		○		
44	○		シャシ2	ブレーキ装置、走行装置(ステアリング、タイヤ、D/F)	1 後 上	68.4				○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択 限定						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
45	○			シャシ3	MT車のトランスミッション脱着、トランス・アクスル	1 後 上	68.4				○	○		○		
46	○			エンジン2	ジャーベル・エンジンのオーバー・ホール、測定作業、列型ポンプ	1 後 上	68.4				○	○		○		
47	○			電気装置2	始動装置、充電装置	1 後 下	38.0				○	○		○		
48	○			電気装置3	エンジン電装品、オシロスコープの取り扱い	1 後 下	38.0				○	○		○		
49	○			エンジン3	電子制御燃料噴射装置その1	1 後 下	38.0				○	○		○		
50	○			シャシ4	実車ブレーキのオーバー・ホール、LSD	1 後 下	38.0				○	○		○		
51	○			エンジン4	実車エンジンの脱着、過給機	2 前	76.0				○	○		○		
52	○			エンジン5	電子制御式燃料噴射装置その2、トラブルシュート	2 前	76.0				○	○		○		
53	○			シャシ5	A Tの構造作動、エア・ブレーキ、パワーステアリング	2 前	76.0				○	○		○		
54	○			シャシ6	車検・定期点検、4輪ホイール・アライメント	2 前	76.0				○	○	○	○		
55	○			二輪2	4気筒用キャブレタの脱着、点検、調整。フロントフォークのオーバー・ホール	2 後 上	60.8				○	○		○		○

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	限 定	選 択 限 定						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
56	○			電気装置 4	電装品の回路と作動、トラブルシュート、エアコン	2 後上	60.8				○	○		○		
57	○			エンジン 6	コモンレール、インジェクション・ポンプ、電子制御装置	2 後上	60.8				○	○		○		
58	○			エンジン 7	台上エンジン・オーバーホール、V6エンジン、水平対向エンジン、ロータリエンジン	2 後上	60.8				○	○		○		○
59	○			G 総合実習	電子制御式燃料噴射装置その 3	2 後下	15.2				○	○		○		○
60	○			C 総合実習	A T の総合点検	2 後下	15.2				○	○		○		
61	○			E 総合実習	トラブルシューティング	2 後下	15.2				○	○		○		○
62	○			E 総合実習 2	バッテリー、スタータ、オルタネータの総合点検	2 後下	15.2				○	○		○		
63	○			ボディ工学	車のフレームの種類、構造について解説する。	3 後	14.0			○		○	○	○		
64	○			車両運動力学	車の動的特性(走る、曲がる、とまる)について、路面状況の違い、駆動形式の違いなどいろいろな観点から解説する。	3 前	14.0			○		○	○	○		
65	○			車両運動力学 演習 1	一級自動車整備士試験に出題されるシャシ分野のうち、音、振動、車両安定性の部分を理解する。	4 前	14.0			○			○	○		
66	○			車両運動力学 演習 2	一級自動車整備士試験に出題されるシャシ分野のうち、音、振動、車両安定性の部分を理解する。	4 後	14.0			○			○	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択限定					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
67	○			デジタル回路	デジタル回路の基礎をサーキットボードで確認し、論理回路の簡素化、車への応用例などを解説する。	3前	14.0	○			○		○		
68	○			CAD	CADによる機械製図を作成することにより、自動車の設計におけるCADの基礎を理解する。	3前	28.0		○			○		○	
69	○			エンジン電子制御1	一級自動車整備士試験に出題されるエンジン分野のうち、電子制御回路の基本、デジタルサーキットテストや外部診断機の特性、各センサ回路の作動を理解する。	3前	28.0	○			○		○		
70	○			エンジン電子制御2	一級自動車整備士試験に出題されるエンジン分野のうち、各アクチュエータの制御回路の異常診断、CANの通信方式とその回路等を学び、高度故障診断の理論を理解する。	3後	28.0	○			○		○		
71	○			エンジン電子制御3	エンジン電子制御に関して総合的な内容を理解し演習も実施する。	4前	14.0	○			○		○		
72	○			シャシ電子制御1	一級自動車整備士試験に出題されるシャシ分野のうち、EAT、電子制御PS、オートエアコンの電子制御回路の作動と高度故障診断について理解する。	3前	28.0	○			○		○		
73	○			シャシ電子制御2	一級自動車整備士試験に出題されるシャシ分野のうち、振動・騒音の発生原理と、具体的な騒音振動に関する原因と故障診断法について学ぶ。	3後	28.0	○			○		○		
74	○			シャシ電子制御3	シャシ電子制御に関して総合的な内容を理解し演習も実施する。	4前	14.0	○			○		○		
75	○			新技術	一級自動車整備士試験に出題される新技術分野のうち、ハイブリッド、CNGエンジン、筒内噴射エンジン、コモンレール・ディーゼルエンジンの構造作動を解説する。	3前後	28.0	○			○		○		
76	○			新技術演習	一級自動車整備士試験に出題される新技術分野のうち、CVT、車両安定制御装置、SRSAエアバッグ等を説明し、新技術に関する演習と解説を行う。	4後	14.0		○		○		○		
77	○			総合実務	自動車整備業界に従事するために必要な応酬話法、CS、問診方法などについて解説と演習を行う。	4後	14.0		○		○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択 限定						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
78	○			環境安全	自動車整備業界を取り巻く、産業廃棄物、リサイクル、安全管理などについて解説する。	3後	14.0		○			○		○		
79	○			環境安全演習	一級自動車整備士試験に出題される環境安全分野の問題演習と解説を行う。	4後	14.0			○		○		○		
80	○			教育実習	3年生の実習を1日間担当する。授業の計画と実践を通し、技術指導の基本を習得する。なお、本実習は3年次の「職業訓練指導員資格」取得を前提としている。	4前	14.0		○			○		○		
81	○			自動車法令	一級自動車整備士試験に出題される法令分野のうち、道路運送車両法について解説する。	3後	14.0		○			○		○		
82	○			基礎実習	2級課程の復習、車両及び工具、テスト等の取り扱い	3前	22.8				○	○			○	
83	○			実車T/M、デフ	FF、FR、4WDのトランスミッション脱着、ドライブシャフト、デフの脱着分解	3前	60.8				○	○			○	
84	○			ボディ艤装	ボディ内外装部品の脱着、交換、調整、アタッチメントの取付	3前	30.4				○	○			○	
85	○			エンジン新技術	CNG、コモンレールディーゼル、直噴ガソリンエンジンの構造	3前	45.6				○	○			○	
86	○			商用車整備	貨物車特有の整備(駆動系及びエンジンを含む一般整備)	3前	15.2				○	○			○	
87	○			車体電装	車体電装品の構造、オートエアコンの作動	3前	30.4				○	○			○	
88	○			実車エンジンOH	実車からのエンジン脱着、エンジン分解、測定組立作業	3前	60.8				○	○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択 限定					講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
89	○			機械工作	卒業研究に関連した金属加工、溶接作業等	3前	30.4			○	○		○		
90	○			定期点検整備	法定点検、車検・定期点検整備の実務、記録簿、作業報告書の作成	3前	60.8			○	○		○		○
91	○			エンジントラブルシュート1	エンジンの機械的不具合の修復、電子制御装置の信号確認とフェイルセーフ	3前	30.4			○	○		○		
92	○			A/Tトラブルシュート1	A/T内部構造の確認、日産ATの制御、フェイルセーフ	3前	30.4			○	○		○		
93	○			電装品トラブルシュート1	車体電装品のトラブルシュート（灯火装置、パワーウィンド、オートエアコン等）	3前	30.4			○	○		○		
94	○			実車ステアリング	油圧（ギヤBOX、ポンプ）の脱着、分解、電動PSの作動確認、アライメント	3後	30.4			○	○		○		
95	○			ハイブリッド・EV	ハイブリッド車の構造（駆動用バッテリー、インバータ・コンバータ、トランスアクスル）EVの構造	3後	60.8			○	○		○		
96	○			シャシ新技術	車両安定装置（ブレーキ）、CVT、エアバッグの構造、作動	3後	45.6			○	○		○		
97	○			トラブルシュート総合1	各分野トラブルシュートについての総合実習	3後	45.6			○	○		○		
98	○			自動車検査	保安基準適合性の確保、検査機器の取り扱い、検査帳票の作成	4前	45.6			○	○	○			
99	○			板金塗装実務	パネルを使った板金塗装の基本作業と工程学習	3後	45.6			○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択 限定						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
100	○			実車板金塗装	実習車の全塗装、板金、補修塗装	3 後	45.6				○	○		○		
101	○			整備見積実習	標準作業点数表による整備料金の算出、見積書、精算書の作成。中古車販売での車両見積もり	4 前	45.6				○	○		○		
102	○			エンジントラブルシュート2	エンジンの電子制御部品、回路の不具合探求、トラブルシュートの手順習得	4 前後	45.6				○	○		○		
103	○			A/Tトラブルシュート2	実車ATの分解、組立、不具合探求、現象確認	4 前後	45.6				○	○		○		
104	○			電装品トラブルシュート2	車体電装品のトラブルシュート応用（灯火装置、パワーウィンド、オートエアコン等）	4 前後	45.6				○	○		○		
105	○			点検整備実務	継続、予備、新規検査等のための整備作業、検査場への持込による検査	4 前	91.2				○	○	○	○		
106	○			NVH	騒音、振動に関するトラブルシュート、不具合発生源の断定方法の確認	4 前	38.0				○	○	○	○		
107	○			体験実習（インターンシップ）	認証・指定整備工場でのインターンシップ	4 前	230.4				○		○			○
108	○			高度故障診断エンジン	エンジン分野のトラブルシュート、故障診断機、オシロスコープを活用した不具合解析	4 後	30.4				○	○		○		
109	○			高度故障診断シャシ	シャシ分野のトラブルシュート、故障診断機、オシロスコープを活用した不具合解析	4 後	30.4				○	○		○		
110	○			高度故障診断電装品	エンジン及びシャシ分野以外のトラブルシュート及び故障修正	4 後	30.4				○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級整備学科) 2022年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	限定	選択 限定						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
111	○			トラブルシューティング総合2	各分野トラブルシューティングについての総合実習	4後	45.6			○	○		○			
112	○			フロント業務	顧客対応マナー、問診、整備内容の説明などの話法、対応方法	4後	60.8			○	○		○			
113	○			総合診断	実務に準じた定期点検、トラブルシューティング、帳票作成など総合的な整備作業	4後	60.8			○	○		○			
114	○			卒業研究	2年間を通じて車に関する研究、実験等を行い、レポート・プレゼンテーションを作成する	3 4通	129.2			○	○	○	○			
115	○			充電設備設置技術	EV用の充電設備を設置するための技術・知識と資格を取得する。	3後	129.2			○	○		○	○		
合計					115 科目	4374 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目をすべて修得。1年修了時限定科目2単位以上、2年修了時に学科600h以上、実習1200h以上を修得。3年進級時に二級がソリッド・二級ジェル自動車整備士資格を取得すること。卒業時に3600h以上かつ学科880h以上、実習1665h、実務実習750h以上修得のこと	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。